

進路選択状況調査報告

——看護学生の進路選択と進路設計——

岡本 英雄* 松本 純平*

1. 調査の概要

1-1 調査のねらい

新規学校卒業者数の減少，および進路選択における大学・短大進学志向の増大，さらには若者の価値観の多様化という全般的状況は，看護学校入学志願者の絶対量の減少と質の変化をまねき，それらは看護婦養成・看護教育にいままでとはちがった質の教育実践を要請している。

ここで要請されている教育実践は，もちろん，いままでの看護教育の積み重ねと新しい状況への柔軟な対応の中で生まれるものであろう。それゆえ，現在の看護教育は，細かな点にいたるまで点検されねばならないし，それと相まって，看護教育の最も重要な構成員である看護学生の諸特質の把握も必然的に要請されてくるわけである。こうした理解の上に，既存の看護学生の意識調査などをみても，ものたりなきを感じる。すなわち，「なぜ，看護学生がそのような意識をもっているか」というような疑問

* 職業研究所

や，「そのような意識は，看護学生の行動にどのような影響をもたらすのか」とか「そのような意識は，どのようにしたら変化するのか」といったダイナミックな問題意識に十分応えたものとはいえないからである。その理由は，これらの調査では，対象である看護学生を，「看護学生である」といういわば静的な視点でとらえているからであるし，さまざまな要因との関わり合いをとらえていないからである。

先にあげたようなダイナミックな問題意識にこたえてゆくためには，「看護学生」をダイナミックな視点でとらえていく必要がある。すなわち，看護学生を過去に，「看護学生になる」ことを選択し，現在，日々「看護学生たらん」とし，将来，「看護婦等の職業に就こう」としている動的な存在として，さまざまな要因との関わり合いの中でとらえてゆくことである。

ところでこの視点はまた，対象を単なる学校の構成員ではなく，過去の選択を評価し，将来の見通しをもった選択の主体としてとらえるわけで，これは1人ひとりの個性を尊重する教育実践にとってふさわしい情報を提供するものと

期待されるのである。

以上のような基本的な立場にたち、従来から使われてきた意識調査項目と看護学生の属性項目、および選択過程をとらえる調査項目を不可分のものとして組み込み、看護学校入学以前から卒業にいたるまで看護学生の進路選択の過程を把握しようとして、本調査は企画された。

ところで、一連の過程を分析するための調査・研究のデザインで最も代表的なものは縦断的方法 (longitudinal method) によるものであろう。これは、1群または1人の対象者を長期にわたり継続的に追跡し、観察とか測定を反復してえたデータから一連の過程を分析するという方法である。この方法は、一連の変化してゆく過程をとらえてゆくには秀れたものではあるが、研究に長年月を要すること、研究の対象者の獲得がむずかしいとか多数の標本が得にくいなどの短所をもっている。この方法に対し、横断的方法 (cross-sectional method) という方法がある。これは、年齢とか学年の異なる多くの対象者群から、一時にデータを収集し、この姿から一連の過程を解析しようとするものである。この方法は、実施が容易であり、一時に必要とされるデータが得られるなど、利用されやすい側面をもっている。しかし、平均的・統計的なやり方で一連の過程を推定するわけで、それに伴って生ずる、個人的な特徴が無視されるとき、時間を隔てた2つの要因間の相互関係が分析できないこと等の短所をもっている。本研

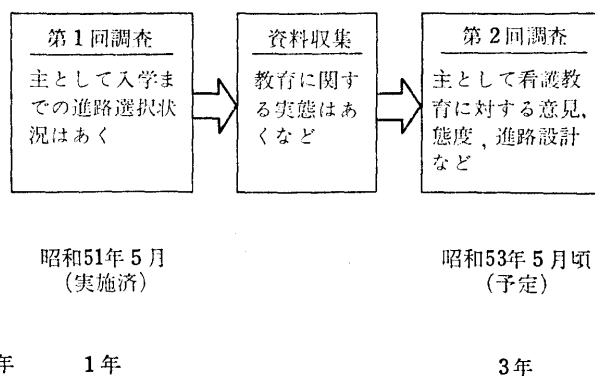


図1 本研究のデザイン

究は、企画に際し基本的には、縦断的方法による方法を採用した。すなわち、図1のように、第1回調査は昭和51年5月に実施、その内容は、回想法による看護学校入学までの進路選択の実態をはあくしようとするものである。第2回調査は、昭和53年5月頃実施予定で、その内容は、看護教育に対する意見、態度および今後の進路設計について把握しようとするものである。なお、この2回の基本的な調査の間に、看護教育の実態とか臨床実習等、看護学生が実際日々受ける教育の実態を、対象者の現状に則して把握するための資料収集とか聞き取り、観察等の作業が予定されている。

研究の全体は、基本的に上述のようなデザインの下に進められているので、現在のところ、看護教育の影響をも含めた看護学生の進路選択の過程を分析する作業にはたちいたっていない。本報告は、第1回調査の結果、主として看護学校入学にいたるまでの進路選択状況に関する部分（および、3年生の回想法による看護教育の影響を加味した進路設計の状況に関する部分）を1年生と3年生を合わせて整理したものである。

1-2 調査の内容

(1) 調査票の構成

調査票は次にあげるように、大きくは3つの部分から構成されている。

I 調査対象者の個人的特徴

① 出身地域

② 出身高校の諸特徴

(イ) 課程別

(ロ) 共学・別学

(ハ) 就職率

③ 家庭的背景

(イ) 父の学歴

(ロ) 父の就業の有無

(ハ) 父の職業

(ニ) 母の学歴

(ホ) 母の結婚後の就業状態

(ヘ) 看護婦近在の有無

II 看護学校入学前の状況

① 全般的な進路選択状況

(イ) 進路選択に対する評価

(ロ) 高校時代の選職態度

(ハ) 高校時代の生活に対する評価

② 看護学校入学をめぐる状況

(イ) 看護婦への憧れ

(ロ) 入学決意の時期

(ハ) 他の進路との関係

(ニ) 入学時の進路予定

(ホ) 周囲の反応 1

(ヘ) 周囲の反応 2

③ 看護婦に対する態度

(イ) 看護婦像形成の影響因

(ロ) 適合性(入学前)

(ハ) 看護婦の職業イメージ(入学前)

III 看護学校入学後の状況

① 全般的な状況

(イ) 看護学生としての誇り

(ロ) 現在の生活に対する満足感

(ハ) 教育に対する満足感

② 進路設計をめぐる価値観

(イ) 職歴観

(ロ) 職業能力観

(ハ) 仕事観

(ニ) 聖職観

③ 看護婦に対する態度

(イ) 適合性(現在)

(ロ) 看護婦の職業イメージ(現在)

(ハ) 自分の子に対する態度

④ 将来の計画

(イ) 卒業後の進路予定

(ロ) 職場選択の基準

(2) 調査の対象者

首都圏の高等看護学校、看護短大・大学のうち、設置者・規模等を考慮して、次の10校を選定し、その学校の1年生と3年生の全員を対象者とした。

	学 校 名	有効回答数	
		1年生	3年生
1	国立A病院附属看護学校	35	36
2	国立B大医学部附属看護学校	39	23
3	C 逓信病院高等看護学校	38	37
4	都立D "	126	120
5	" E "	69	49
6	私立F大病院併設看護学校	39	29
7	私立G大医学部附属看護学校	82	61

8	私立H医大併設看護短大	59	24
9	I日赤短大	46	32
10	国立J大特別教科看護教員 養成課程	17	15
	計	550	426

なお、本調査の企画は時間経過を追うことに力点をおいたため対象の選定においては、高等看護学校としての一般性ということをそれほど考慮していない。

(3) 調査の期間

調査は、昭和51年5月7日から5月21日までの2週間に実施した。

(4) 調査の方法

調査は調査票を用いた。回答の記入方法は自計式。調査の実施にあたっては集合法、すなわち、調査者が対象校を訪問し、放課後あるいは空き時間を利用し、教室において一斉に実施する方法を原則とした（実際に回答に要した時間は20～30分）。しかしながら、学校の都合等で一部の学校では、対象校の教官による実施、また一部の学校では、留置法も採られた（留置期間は一週間）。

3. 調査結果の概要と問題点

ここでは、今回の調査結果のうち、全体単純集計分とクロス集計の1部を、すでに報告された他の調査結果などを参考にしながら整理し、併せて、今後の問題点のいくつかを指摘したい。

3-1 調査結果の概要

個々の質問に対する結果を整理する前に、調査票の大きな3つの構成部分（個人的特徴、入

学前の状況、入学後の状況）にそって、その結果を概観してみよう。

まず第1に、調査対象者の個人的特徴についてしてみると、出身地域の点では、類似の調査結果とほぼ一致している。すなわち、首都圏の看護学生の供給地域は、北海道・東北、次いで中部、関東、東京、九州・沖縄の順であり、これらの地域構成は、前原ら（1975）も指摘するように、首都圏への新規高卒労働者の供給と類似した構成を示している。

家庭的な背景についても、従来から指摘されているような結果が得られた。すなわち、父の職業の中に、農林漁業が占める割合は、全就業者に占める農林漁業従事者の割合に比べ高くでている。しかしながら、松木ら（1972）の調査結果のように、その構成比が26.6%という高いものではなく、「管理的職業」、「専門・技術的職業」の割合も多い。先に調査の対象者の項で指摘しておいたように、今回の調査対象者は、この点で既存の調査結果とそのまま比較できない側面をもつ。家庭的な背景について、3年生と1年生との構成比から今後を推論してみれば、「農林漁業」が減少、いわゆるホワイト・カラー層が増加するといえそうである。また、それと関連して、父母の学歴についても高学歴化の傾向がみられる。

次に出身高校をみると、ほとんどの学生が普通科出身である。また、就職率からみても出身高校は、その地域でのいわゆる進学校というケースが多いとみてよいであろう。

また、母・姉・親戚など身近かに看護婦がいたかどうかという点では、6割の者が、「いる」

と答えている。さらに、「母と姉が看護婦」というような複数いる場合も少なくなく、一般の学生に比較すれば、看護婦という職業を身近なものとする機会が多いと思われる。

第2に、看護学校入学前の状況についてみてみよう。全般的な進路選択状況をとらえるものとして、高校時代の進路選択に対する評価を求めているが、これに対し、約7割の者は肯定的な回答（「間違っていない」+「まあ間違っていない」）を示している。この質問は、職業研究所の10年追跡研究の質問項目から借用したものであるが、そちらの方の結果は女子300名のうち69.7%が肯定的な回答を示しており、非常によく似ている（追跡研究の場合の対象者は高卒就職者で、卒業後1年半の時点で調査している。なお詳しくは、職業研究所、職研資料シリーズⅢ—15参照）。しかしながら、追跡研究の結果をみると「間違っていない」18.0%、「まあ大した間違いはなかった」51.7%であるのに対し、看護学生の場合は、「間違っていない」36.8%、「まあ大した間違いはなかった」33.0%と、より肯定的な回答が多い。

高校時代の生活に対する評価については、約6割強の者は、肯定的な回答（「非常に充実」+「だいたい充実」）を示している。前原ら（1975）の調査では、「楽しくなかった」かどうかで、高校生活の実感を尋ねているが、それをみると、「楽しかった」76.5%「楽しかった」4.2%、「どちらでもない」19.1%という結果である。質問文のニュアンスの違いはあるが、今回の調査対象者の方にやや否定的な見方をする者が多いようである。

高校卒業時点における選職態度に関しては、「豊かな生活というより世の中のために」なり、「自分がうちこめ」、「能力の発揮ができる」一方、「平凡でも幸福な家庭をつくれるような」職業を選ぶという傾向を示している。看護学生の選職観、職業観等についてはいくつか調査報告がなされている。ここでは、大根田（1976）と比較しておこう。大根田は、すでにふれた職業研究所の10年追跡データを用い、対象者を、進路別（大学進学—非進学）・男女別で4群に分け、今回の調査で借用された選職態度の質問項目のうち、「世の中のため経済的に豊かな生活」、「自分がうちこめる楽しむための時間」、「将来高い地位平凡で幸福」の3つの次元での回答状況を整理している。これと今回の看護学生の調査とを比較すると、「世の中のため経済的に豊かな生活」の次元では、看護学生は非進学・女子および進学・女子よりもさらに一層「世の中のため」という態度が強い。「自分がうちこめる楽しむための時間」の次元では、進学・女子とほぼ同じ回答分布を示し、非進学・女子に比べ、「自分がうちこめる」という方を選んでいる。「将来高い地位平凡で幸福」という次元では、「将来高い地位」を選ぶ割合が、非進学・女子で15.2%進学・女子で20.8%であるのに対し、看護学生は、30.2%と、むしろ男子の態度に近い、高い地位志向を示している。これらは看護学生の選職態度がどちらかといえば非進学・女子より進学・女子に近いことを示し、「世の中のため」という態度と、女子で比較的多い「平凡で幸福」という態度が少ないという点できわだった特徴を示している。

次に、看護学校をめぐる状況をみてみよう。中学生になる前に看護婦に憧れた者は、全体の41.8%で、憧れたことがないという者の方がむしろ多い。小中学生の職業希望調査によると、特に小学校時代希望する者が多く、学年が進むに従い漸減していく職業の代表的なもの1つとして看護婦があげられているが、そのこととこの結果をつきあわせてみると、看護婦希望者の漸減という現象は、単に一方的に希望者が非希望者になってゆくため生ずるものではないことを暗示している。

入学決意の時期の点でもいくつか興味ある結果がみられる。看護学校入学を決意した時期をみてみると、高3の時点が最も多い。しかしながら、ほぼ4人に1人は高校に入学以前にすでに将来看護学校へ進学することを意識している。この入学決意の時期については、松木ら(1972)の調査も、丸橋ら(1971)の調査も、看護学生の進路決定の時期が比較的早いことを報告している。特に、丸橋らの調査は1969年、大阪府下の看護学生を対象にした調査にもかかわらず、今回の調査とまったく類似した結果を報告しているのは興味深い。

次に、看護学校入学と他の進路との関係をみてみると、看護学校だけという者の割合は全体の41.1%を占めている。質問の設定が異なるので直接的な比較には無理があるが、前原ら(1975)は「3年課程の看護学生においては現在、在籍中の看護学校を受験したときに、同時に他校を受験したものは、79.5%あり、その他校の種類は圧倒的に看護学校が多い」という結果を報告している。これに対し、今回の調査は、44.3

%の者は看護学校入学以外に大学・短大への進学を考慮したことを示した。また考慮した大学・短大の学科をみてみると、医学、衛生学、薬学といった医療と関連した学科を考えた者よりは、国文学・英文学・教育というような非医療関連の学科を考えた者の方がかなり多い。

入学時の方針は、全体の71.5%は、「看護婦になる」という方針を持っているという結果を得た。これは、松木らの調査では48.6%、前原らの調査では「ぜひ看護婦になりたい」43.6%と「ほかに仕事がなければ看護婦になってもよい」6.4%と合わせて50%、丸橋らの調査では58.3%であるのに対し、かなり高い割合である。

看護学校受験に対する周囲の反応をみてみると、両親、担任の先生、友人、看護となんらかの関係のある人とも受験の促進因となっている。その中では母の反応がいずれにしろはっきりした態度を表明している様子がうかがえる。

看護婦像の形成に対して影響がある要因は、「実際に看護婦に接したこと」および「看護婦についての人の話」が圧倒的大きく、パーソナルな情報源から影響を受けている様相を示している。丸橋らの同種の質問に対しては、テレビの影響も報告されているが、今回の調査には特別あらわれていない。

仕事との適合性については、興味、学力、身体的条件、価値観、性格、計画の6つの側面のどれも75%以上の者が「合っている」が「まあ合っている」と答えている。また、同一の評定を調査時点においてしてもらった結果は、入学以前の評定と比較して、肯定的回答の減少がみられた。

看護婦の職業イメージは、「やりがい」、「仕

事の将来性」,「社会的貢献」「仕事の専門性」において、プラスのイメージが強く、「勤務時間」についてマイナスのイメージが強い。これらは、岡本の職業イメージ調査(1972, 1975)の結果と大きな違いはみられない。職業イメージ調査では看護婦という職業は、「仕事が単調でなく、体が汚れることは少なく、世間の評価は低くなく、親の反対は少ないが、仕事に自律性がなく、疲れる仕事であり、早朝や深夜に働くことが多く、日曜や祭日でも休めないことが多く、必要な技能や知識を習得するには時間がかかるし、収入も低い」というイメージである。調査時点での職業イメージを入学以前のイメージと、イメージのプロフィールは非常によく似ているが、全般的に中立的な方向(+→±, -→±)にイメージが変わっていた。

第3に、看護学校入学後の状況について概観してみよう。

対象者たちは、現在、看護学生であることに誇りをもっているであろうか。結果をみると、44%の者は「誇りをもっている」と答えているが、「どちらともいえない」という者がほぼ半数を占めている。大越ら(1970)の調査結果をみると、「誇りをもっている」39.6%、「どちらともいえない」52.1%で、今回の調査対象者の方が、現在の自分を肯定している。誇りをもっているかどうかとも関連するが、現在の生活に対する満足感はどうなっているであろうか。結果は、「満足」、「どちらともいえない」、「不満足」と3分類するとそれぞれ41.7%、27.3%、30.7%で、「満足」の者がやや多かった。それでは、教育に対してはどのような満足感をもっ

ているのであろうか。11の側面について現在まで受けてきた教育についての満足感を尋ねた結果は、どの側面でも「不満足」という回答が目立った。大越らも報告しているように、特に一般教育、専門教育に対する不満は大きい。また、学生生活の自由さ・寮生活などの側面では、回答が両方向にばらついていた。

次に進路設計をめぐる状況をみてみよう。看護学生はどのような職歴観をもっているのだろうか。最も多い意見は「育児中断型」で全体の45%占め、次に「継続型」36.2%、「出産離職型」9.0%の順になっている。職業研究所が首都圏に居住する20才以上60才未満の女性を母集団とし、無作為抽出された1,800人を対象として行なった職業移動調査(女子)(1975)の結果をみると、「育児中断型」41.6%、「継続型」21.0%、「結婚・離職型」14.2%、「出産離職型」9.5%である。これらと比較すると、「継続型」が圧倒的に多いが目立つ。

看護学生の職業能力観はどんなものであろうか。結果は、「差・社会的役割説」すなわち、「男女間に職業能力の差があったとしても、これは長い間の社会的役割の違いによって作られたものである」という意見が最も多く、全体の46.7%を占めている。

仕事観についていえば、「義務」とする者が32.7%、「生きがい」とする者29.6%、「生計維持」とする者21.4%という結果であった。

次に、聖職観についてはどうであろうか。「看護婦は、一般の仕事と違い尊い職業だ」という意見に対する反応は、「ほぼ一致」とする者28.7%「どちらともいえない」52.6%、「ほ

とんど不一致」18.1%という結果であった。現職を対象とした、車田の調査(1969)は、職業意識の8年間の変化を報告している。質問の設定が、聖職者労働者という軸なのでかならずしも適切な比較ではないが、この報告では、20才の看護婦の53.4%は、「看護婦は一般の労働者と違い尊い職業です」という意見であった。車田は世代間の比較などを通して「尊い職業」という意識から「看護婦も労働者の一員」という考え方に傾きつつあることを指摘しているが、今回の結果も、その傾向を裏づけているといえよう。

看護婦に対する適合性、職業イメージについては先に述べたように、入学前に比べて、一定の方向への変化がみられた。

卒業後の進路予定は、どうであろうか。結果は、全体の67.6%の学生は「看護婦になる」という進路予定をしている。「看護婦にならない」予定の者は30.4%を占めるがそのほとんどは保健婦学校、助産婦学校などへの進学予定者が占めている。

3-2 調査対象者の個人的特徴

① 出身地域(卒業高校の所在地)(表1)

対象者の出身地域を卒業した高校の所在地で代表させ、それを東京、関東、北海道・東北、中部、東海、近畿、中国・四国、九州・沖縄、その他(含、N. A., 不明)の9地域において整理した。その結果は、表1の通りである。最も多いのが、北海道・東北、次いで、中部、関東、東京、九州・沖縄の順である。これら各地域が占める割合の順序は、学年別に集計しても変わっていない。また、各地域の割合もたがいに

表1 出身地域(卒業高校の所在地)

地 域	人 数	百 分 率
東 京	145	14.9
関 東	161	16.5
北海道・東北	234	24.0
中 部	211	21.6
東 海	57	5.8
近 畿	3	0.3
中国・四国	37	3.8
九州・沖縄	117	12.0
そ の 他	11	1.1
計	976	100.0

表2 課 程 別

課 程	人 数	百 分 率
普 通 科	914	93.6
商 業 科	31	3.2
家 政 科	15	1.5
衛生看護科	4	0.4
そ の 他	10	1.0
N. A.	2	0.2
計	976	100.0

表3 共 学・別 学

共 学・別 学	人 数	百 分 率
共 学	543	55.6
別 学	420	43.0
不 明	13	1.3
計	976	100.0

表4 就 職 率

就 職 率 (%)	人 数	百 分 率
0.0~ 9.9	352	36.1
10.0~19.9	185	19.0
20.0~29.9	141	14.4
30.0~39.9	104	10.7
40.0~49.9	69	7.1
50.0~59.9	32	3.3
60.0以上	70	7.2
不明, 新設校	23	2.4
計	976	100.0

類似している。これらのことは、看護学校が一定の入学者供給地域を持っていることを示しているといえよう。

② 出身高校の諸特徴

(イ) 課程別(表2)

出身高校の課程別の集計は表2のようになった。全体の93.6%は普通科である。次に多いのが商業科，家政科の順であるが，普通科に比べて非常に少ない。

(ロ) 共学・別学(表3)

出身高校を男女共学か別学かで集計したのが表3である。共学が55.6%，別学が43.0%で，共学の方がやや多い。

(ハ) 就職率(表4)

昭和51年度全国高等学校便覧(労働省職業安定局編)をもとに，出身高校毎に就職率を算出し，それらを8つに分類し，整理したのが表4である。約7割の者は，就職率が30%以下の高校出身者であり，看護学生の多くの部分が，いわゆる，進学校出身者であることを示している。ちなみに，文部省の学校基本調査報告書を見ると，昭和50年度の全国の高校女子の平均就職率は51.6%である。

(注) ここで各高校の就職率は次の式から求めた。

$$\text{就職率} = \frac{\text{全就職者数}}{\text{全卒業生数}} \times 100$$

③ 家庭的背景

(イ) 父の学歴(表5)

父の学歴を表5のように5分類してきいた結果は，多い順に旧制小学校，新制中学校，旧制中学・新制高校，旧制高校・専門学校・新制短大・高専であり，旧制小学校・新制中学校が3割強，旧制中学・新制高校，および，それ以外

表5 父の学歴

父の学歴	人数	百分率
旧制小学校・新制中学校	305	31.3
旧制中学・新制高校	292	29.9
旧制高校・新制短大 専門学校・高専	192	19.7
旧制大学・新制大学	99	10.1
不明	88	9.0
計	976	100.0

表6 父の就業の有無

就業の有無	人数	百分率
就業	921	94.4
無職	12	1.2
死亡	37	3.8
N.A.	6	0.6
計	976	100.0

表7 父の職業

父の職業	人数	百分率
農林漁業	183	18.8
自営業主，中小企業主	162	16.6
専門・技術的職業	139	14.2
管理的職業	156	16.0
大企業のサラリーマン	107	11.0
中小企業のサラリーマン	56	5.7
大企業の工員	47	4.8
中小企業の工員販売員	55	5.6
N.A., D.K., 父不就業の場合	71	7.2
計	976	100.0

表8 母の学歴

母の学歴	人数	百分率
旧制小学校・新制中学校	394	40.4
旧制女学校・新制高校	394	40.4
旧制専門学校・新制短大・高専	108	11.1
旧制大学・新制大学	14	1.4
不明	66	6.8
計	976	100.0

が、それぞれ3割というような結果である。

(d) 父の就業の有無（高校卒業時）（表6）

表6のように、ほとんどの場合、父はなんらかの職についている。

(e) 父の職業（高校卒業時）（表7）

職業を表7に示すように9分類して整理した。その結果は、最も多かったのが、農林漁業、次いで、自営業主・中小企業主、管理的職業の順であった。1年生・3年生別に集計してみると、多さの順はあまりかわっていないが、1年生においては、3年生に比べて農林漁業、中小企業の工員・販売員で減少、専門・技術的職業、大企業の工員で増加の傾向がみられた。

(f) 母の学歴（表8）

母の学歴は表8のような結果であり、旧制小学校・新制中学、旧制女学校・新制高校がそれぞれ4割を占めている。学年別に集計してみると1年生の方が、高学歴の方向に増減していることがみられた。

(g) 母の結婚後の就業状態（表9）

表9に示されたように、「継続型」が最も多く、次いで、「（一時中断）再就業型」、「不就業型」の順であった。

(h) 看護婦の近在（表10）

家族、親戚、知人といった身近な人々の中に看護婦がいるかどうか尋ねたところ、表10のような結果を得た。約6割の人は、身近かに看護婦がいたこと示している。また、この割合は、学年別に集計してもほとんどかわっていない。

3—3 看護学校入学前の状況（高校時代）

① 全般的な進路選択状況

(i) 進路選択に対する評価（表11）

表9 母の結婚後の就業状態

就業状態	人数	百分率
不就業	218	22.3
一時就業	64	6.6
再就業	254	26.0
継続就業	426	43.6
N. A., D. K.	14	1.4
計	976	100.0

表10 看護婦の近在

近在の有無	人数	百分率
いる	586	60.0
いない	376	38.8
N. A.	11	1.1
計	976	100.0

表11 進路選択に対する評価

進路選択に対する評価	人数	百分率
間違っていなかったと思う	359	36.8
まあ大した間違いはなかったと思う	322	33.0
いろいろ問題があったようだ	176	18.0
間違っていたと思う	46	4.7
わからな	67	6.9
N. A.	6	0.6
計	976	100.0

高校を卒業した際にとった進路選択に関して、現在どのような評価を下しているかを示したのが表11である。「間違っていなかったと思う」36.8%、「まあ大した間違いはなかったと思う」33.0%と約7割の者は、肯定的な評価をしている。一方、「いろいろと問題があったようだ」という消極的な評価をする者が18%、「間違っていたと思う」と否定的評価をする者が約5%位存在している。

(ii) 高校時代の選職態度（図2）

4つの次元から高校時代の選職態度を尋ねた結果は図2のとおりである。選職態度の特徴

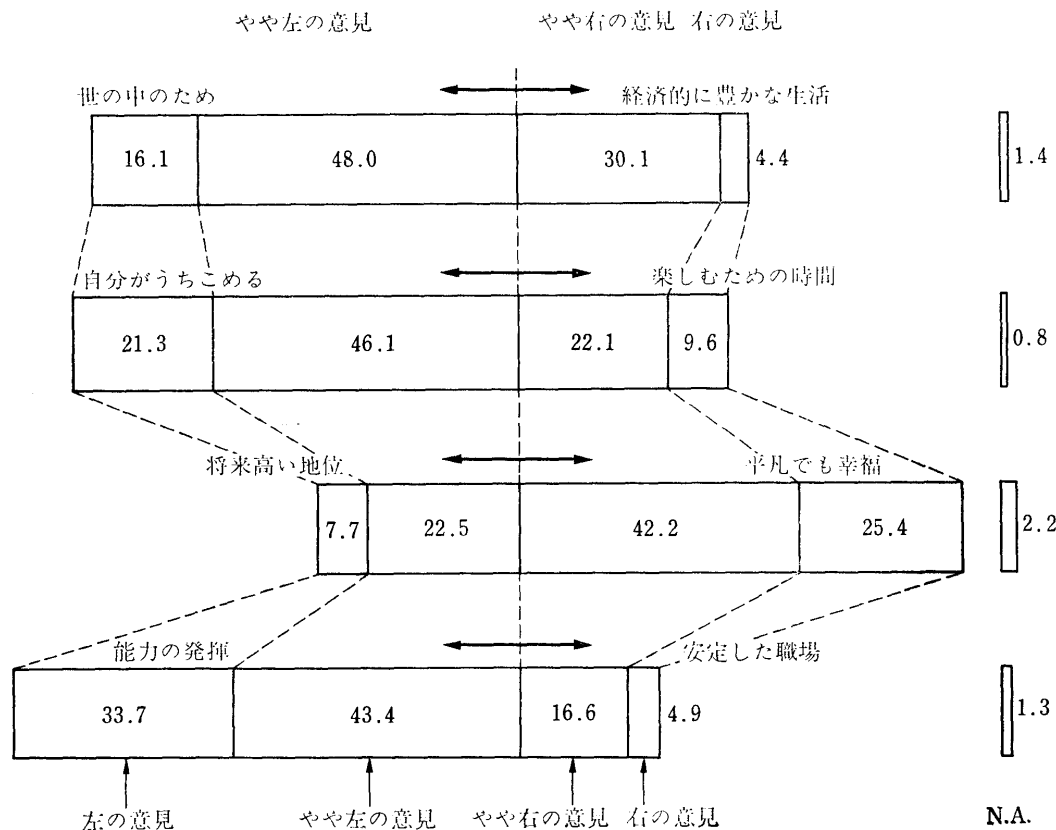


図2 高校時代の選職態度 (数字は%)

は、「豊かな生活というより世の中のために」なり、多少自分の自由な時間を失なっても「仕事にうちこめ」、将来は出世するということはいあまり志向せず、「能力を十分発揮できる」職業を選ぶということがいえよう。個々の次元でみてゆくと、「能力発揮」という点が最も選択されている(33.7%)。次に「平凡でも幸福な家庭をつくれる(25.4%)」こと、「うちこめる(21.3%)」ことへ同調する者が多い。一方、同調者の少ない選職態度は、「経済的に豊かな生活(4.4%)」、「能力が発揮されなくても安定した職場(4.9%)」、「将来高い地位につける(7.7%)」などである。

(イ) 高校時代の生活に対する評価 (表12)

表12 高校時代の生活に対する評価

高校時代の生活に対する評価	人数	百分率
非常に充実していた	111	11.4
だいたい充実していた	500	51.2
あまり充実していなかった	284	29.1
全く充実していなかった	47	4.8
わからない	28	2.9
N. A.	6	0.6
計	976	100.0

「非常に充実していた」11.4%、「だいたい充実していた」51.2%と、6割強の者は肯定的な評価をしている。一方、ほぼ1/3の者は、否定的な評価をしている。その中で、「まったく充実していなかった」と強く否定している者が5%近く存在している。

② 看護学校入学をめぐる状況

(イ) 看護婦への憧れ(表13)

中学生になる前に看護婦に憧れた者は、全体の41.8%である。一方、中学生になる前に憧れたことがないと回答した者は、56.7%ありその割合は、憧れた者のそれより高い。

(ロ) 入学決意の時期(図3)

看護学校入学を決めた時期で最も多かったのは、高校3年生の時点で、全体の約1/3の者がこの時期に決意している。また、ほぼ4人に1人は高校に入る以前に、看護学校へ進学することを意識している。また、84%の者は、高校3年生の時点までに、看護学校へ入学することを決めている。

(ハ) 他の進路との関係(表14)

看護学校入学以外で考慮された進路を、医学・薬学といった医療関連の大学・短大・各種学校への進学と、国文学、英文タイピストといったような医療と関連のない大学・短大・各種学校への進学、および就職に分けた。表14に示されるように、看護学校を受験するという進路以外に考えられた進路で、最も多いのは医療と関連のない大学・短大への進学であり、全体の31.7%を占めている。次に多いのが、医療関係の大学進学で、10.0%である。その他の進路は、それぞれ全体の3~5%を占める位の者が受験決意する頃に考慮していたことを示している。また全体の4割の学生は、看護学校を受験することだけを考えていたことを示している。

(ニ) 入学時の進路予定(表15)

看護学校に入学した時点で、看護婦になろうと考えていたかどうか、また、看護婦になろう

表13 看護婦への憧れ

憧れ	人数	百分率
ある	408	41.8
ない	553	56.7
N. A.	15	1.5
計	976	100.0

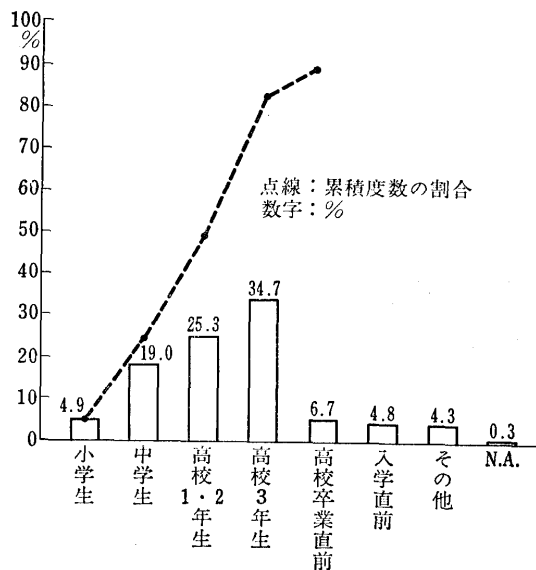


図3 入学決意の時期

表14 他の進路との関係

進路	人数	百分率
・看護学校だけ	401	41.1
・他の進路		
医療関係大学進学	98	10.0
" 短大 "	25	2.6
" 各種学校 "	28	2.9
非医療関係大学進学	309	31.7
" 短大 "		
" 各種学校 "	51	5.2
就職	29	3.0
具体的記述なし	31	3.2
・N. A.	4	0.4
計	976	100.0

という気持ちがありなかった場合、看護学校入学の動機はどのようなものであったのかを4分類し、集計したのが表15である。表をみると、入学時点で71.5%の者は「ぜひ看護婦になろ

表15 入学時の進路予定

入学時の進路予定	人 数	百 分 率
看護婦にならない(進学)	134	13.7
〃 (資格をとる)	31	3.2
〃 (その他)	91	9.3
〃 (N. A., D. K.)	8	0.8
看護婦になる	698	71.5
N. A.	14	1.4
計	976	100.0

う」と考えていることがわかる。また、看護婦になること以外のことを考えている者は、全体の27.0%を占め、それらを入学動機別にみると、そのうち、半数の者が、「保健婦や助産婦になる」といった進学を目ざしており、また、ほぼ1/3の者が「何にかにかけてみたかった」、「しかたなく」、「経済的理由」等の、その他に分類される動機をもっていたことを示している。

(㊦) 周囲の反応1 (表16)

看護学校受験に対する周囲の反応(父, 母, 周囲の大人, 担任の先生, 友人)を「賛成」か「反対」かで尋ね、それぞれの百分率を「賛成率」、「反対率」として整理したのが表16である。これをみると賛成率が高いのは「担任の先生」、「母」、「友人」の順で、「父」、「周囲の大人」の賛成率は相対的に低い。一方、反対率をみると「母」、「周囲の大人」、「父」が相対的に高い。

(㊧) 周囲の反応2 (表17)

看護職と関連のある職業に従事していたりして、看護の仕事を知っている人々の反応は表17にみられるように、身近かにそのような人がいた者の全体を100%とすると、「ほとんどの人が

表16 周囲の反応1

	賛成率	反対率
父	49.9	16.8
母	56.4	20.1
周囲の大人	39.2	18.3
担任の先生	58.4	7.2
友人	55.0	8.9

表17 周囲の反応2

周囲の反応	人 数	百 分 率
身近かにそのような人がいなかったのわからない	415	42.5
ほとんどの人が賛成	220	22.5 (39.6)
賛成の方が多い	161	16.5 (29.0)
賛成反対が半々	104	10.7 (18.7)
反対の方が多い	57	5.8 (10.3)
ほとんどの人が反対	13	1.3 (2.3)
N. A.	6	0.6
計	976	100.0

注：カッコ内は、賛成反対のはっきりしている人数を100とした比率である。

賛成」が39.6%、「賛成の方が多い」が29.0%と、合計して68.6%、すなわち、約7割のケースで、看護学校入学に対して促進的なものであったことを示している。

③ 看護婦に対する態度 (図4)

(イ) 看護婦像形成の影響因

図4の結果をみると、看護婦像形成に影響力をもつ要因としては「実際に看護婦に接したこと」、次いで「看護婦についての人の話」であり、「小説」、「テレビ」、「雑誌・新聞」、「映画」など、マス・メディアからの影響力は少ないことを示している。

個々の要因を「大いに」影響を受けたという点でみると、「実際に看護婦に接したこと(23.8%)」が圧倒的に大きな影響因であること

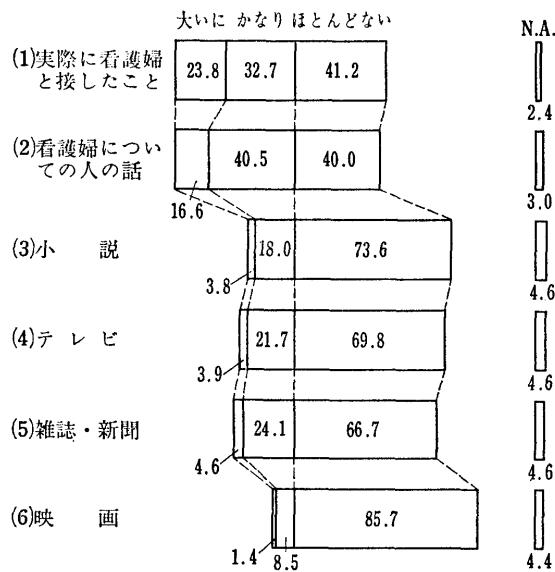


図4 看護婦像形成の影響図(数字は%)

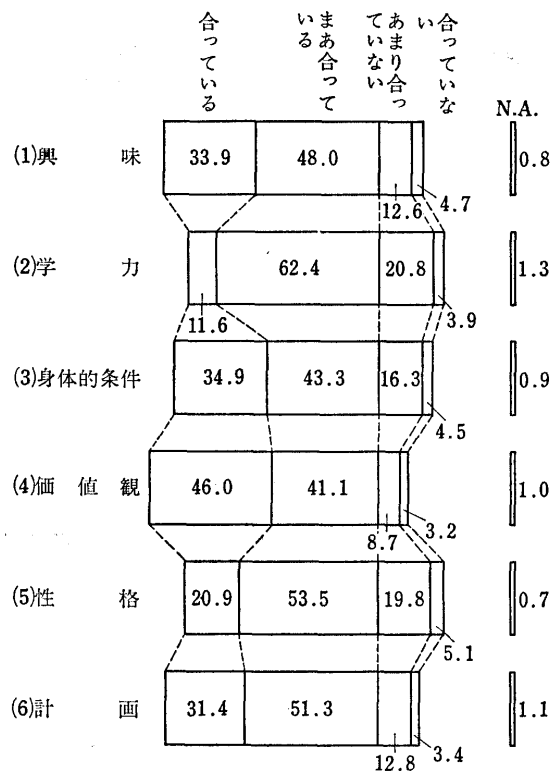


図5 適合性(入学前)(数字は%)

を示している。

(ロ) 適合性(入学前)(図5)

看護婦の仕事に「興味」、「学力」、「身体的条件」、「価値観」、「性格」、「計画」という6つ

の側面からそれぞれ自分との適合性を評定した結果は図5に示されるようなものとなった。「合っている」という回答が多かったのは、「価値観(46.0%)」、「身体的条件(34.9%)」、「興味(33.9%)」、「計画(31.4%)」の側面である。一方、「合っていない」という回答は、6つの側面とも全体の3%から5%の間の者がしているが、どれかが特に高い割合であるということとはみられない。中間的な回答を「合っている」、「合っていない」で2分して大雑把な傾向をみると、「価値観(87.1%)」「計画(82.7%)」、「興味(81.9%)」で適合性ありとする者が多いことがわかる。一方、6つの側面の中で相対的にみて「合っていない」方の割合が高いのは、「性格(24.9%)」、「学力(24.7%)」である。

(ハ) 看護婦の職業イメージ(入学前)(図6)

看護婦という職業のイメージを図6に示されたように、「賃金・収入」、「仕事の将来性」、「勤務時間」、「仕事の内容」、「職場の作業環境」、「社会的な評価」、「仕事の専門性」、「社会的貢献」、「やりがい」、「職場の人間関係」という10の側面で、「++(よいイメージ)」から「--(悪いイメージ)」の5段階で評定させた。その結果を「++」から「--」にそれぞれ1点から5点を与え、平均値を求めプロフィール化したのが図6である。10の側面の中で、よいイメージを示しているのは、「やりがい」、「仕事の将来性」、「社会的貢献」、「仕事の専門性」、「賃金・収入」、これに対し、悪いイメージを示しているのは「勤務時間」である。「仕事の内容」、「職場の作業環境」、「社会的な評価」、「職場の人間関係」の側面は、どちらともいえないとい

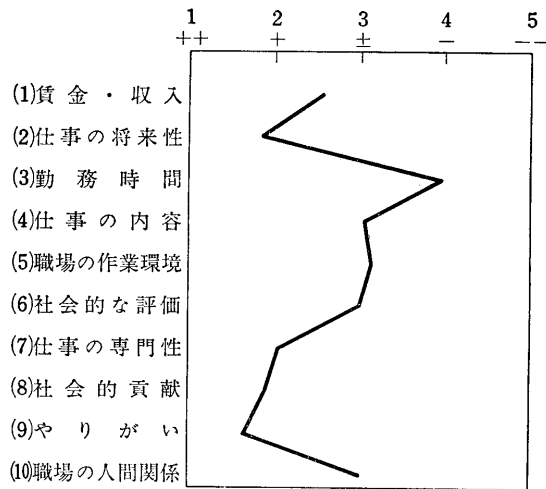


図6 看護婦の職業イメージ（入学前）

表18 看護学生としての誇り

誇り	人数	百分率
誇りをもっている	429	44.0
どちらともいえない	483	49.5
誇りをもっていない	58	5.9
N. A.	6	0.6
計	976	100.0

表19 生活満足感

生活満足感	人数	百分率
たいへん満足している	22	2.3
まあ満足している	385	39.4
どちらともいえない	266	27.3
あまり満足していない	264	27.0
まったく満足していない	36	3.7
N. A.	3	0.3
計	976	100.0

う評価である。

3-3 看護学校入学後の状況

① 全般的な状況

(i) 看護学生としての誇り（表18）

表18にみられるように、「誇りをもっている」という回答は全体の44.0%占めている。一方、

「誇りをもっていない」とする者は、5.9%である。また、約半数の者は「どちらともいえない」という回答をしている。

(ii) 現在の生活に対する満足感（表19）

現在の生活に対する満足感を「たいへん満足している」から「まったく満足していない」の5段階で回答を求めた結果は、「たいへん満足している」、「まったく満足していない」という両極端な回答が少なく、中間的な回答をする者が多かった。中間的な回答を加え、「満足」か「どちらともいえないか」か「不満足」かという点でみると、それぞれ全体に占める割合が41.7%、27.3%、30.7%で、「満足」の方の回答が相対的に多い。

(iii) 教育に対する満足感（3年生）（図7）

現在行なわれている看護教育に対する満足感を、「一般教養」、「専門科目」、「臨床実習」、「臨床実習の方法」、「臨床実習の実習場」、「臨床実習の指導者」、「臨床実習の評価」、「課外活動」、「寮生活」、「学生生活の自由さ」、「学校の教師」の11の側面について、「満足している」から「満足していない」の5段階で評定させた。この質問項目は、3年生にのみ回答させた。また、3年生でも寮生活をしていない者は、「寮生活」の質問では無回答となっている。「満足している」という回答の多い側面は、「臨床実習の実習場（6.6%）」、「学生生活の自由さ（5.4%）」、「寮生活（4.5%）」一方、「満足していない」という回答が多い側面は、「一般教育（30.3%）」、「専門教育（23.0%）」、「学生生活の自由さ（23.2%）」、「課外活動（22.3%）」などである。11の側面の全部について、「満足」、「どちらでもな

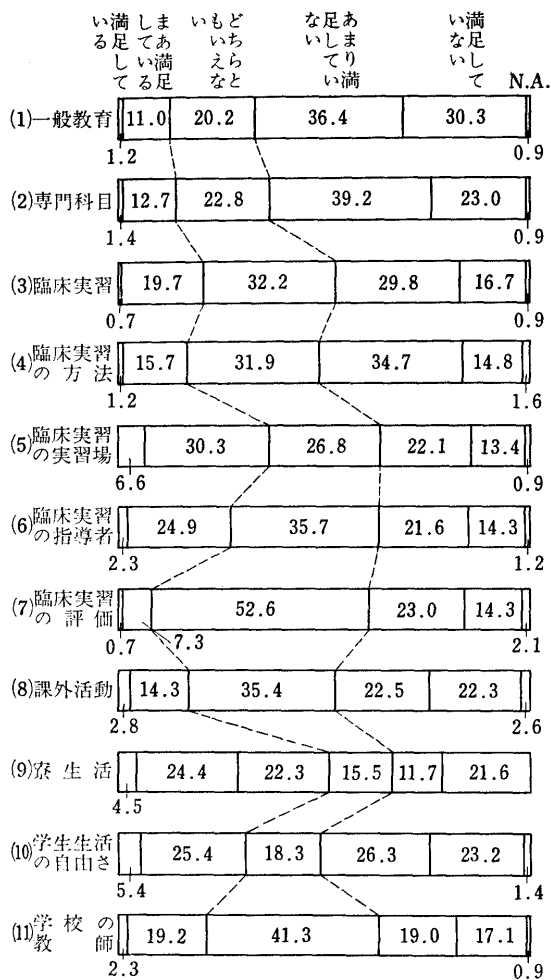


図7 教育満足感（3年生）（数字は%）

い」、「不満足」に3分類してしてみると、「臨床実習の実習場」、「寮生活」の2側面で、「満足」の割合が高いが、他の9つの側面では「不満足」の割合が高い。

② 進路設計をめぐる状況

(イ) 職歴観（表20）

女性の職歴について、「わからない」も含めて、6つの意見を提示し、回答を求めた（調査票参照）。

最も多かったのは「育児中断型」、すなわち、「子供が小さい間はやめて、ある程度大きくなったらふたたび就職する」という意見で、全体

の45%を占めている。次に多いのが「継続型」、すなわち、「子供が生まれても、可能なかぎり続ける」という意見で、全体の36.2%である。この2つの意見で、全体の81.2%が占められ、8割以上の者が結婚、出産、育児ということによる拘束があっても、なんらかの解決がみられれば就業するという意見を持っていることを示している。

(ロ) 職業能力観（表21）

男女の職業能力に関する「わからない」も含めて5つの意見（調査票参照）に対する反応は「差・社会的役割説」、すなわち、「男女間に職業能力の差があったとしても、これは長い間の社会的役割の違いによって作られたものである」という意見が全体の半数近い46.7%を占め、最も多い。次いで「差・態度説」、すなわち、「男女間には職業能力の差というよりも、興味や態度の違いがあるのみである」という意見が28.0%を占め、2番目に多い。

(ハ) 仕事観（表22）

仕事の価値について、4つの意見（「わからない」も含む、調査票参照）に対する反応をみると、最も多いのは「義務」、すなわち、「人間として生まれた以上、仕事をするのは人間のつとめだと思う」という意見に賛成する者で、全体の約1/3、32.7%を占めている。次に多いのが「生きがい」、すなわち、「仕事は生活の中でいちばん大きな生がいただと思う」という意見への同調で、29.6%、続いて「生計維持」の21.4%である。

(ニ) 聖職観（表23）

「看護婦は、一般の仕事と違い尊い職業だ」

表20 職 歴 観

職 歴 観	人 数	百 分 率
不 就 業 型	7	0.7
結 婚・離 職 型	46	4.7
出 産・離 職 型	88	9.0
継 続 型	353	36.2
育 児 中 断 型	439	45.0
わ か ら な い	16	1.6
そ の 他	25	2.6
N. A.	2	0.2
計	976	100.0

表21 職 業 能 力 観

職 業 能 力 観	人 数	百 分 率
差 な し	47	4.8
差・生 得 説	173	17.7
差・社会的役割説	456	46.7
差・態 度 説	273	28.0
わ か ら な い	12	1.2
そ の 他	14	1.4
N. A.	1	0.1
計	976	100.0

表22 仕 事 観

仕 事 観	人 数	百 分 率
生 き が い	289	29.6
義 務	319	32.7
生 計 維 持	209	21.4
わ か ら な い	61	6.3
そ の 他	86	8.8
N. A.	12	1.2
計	976	100.0

表23 聖 職 観

聖 職 観	人 数	百 分 率
ほ ぼ 一 致	280	28.7
ど ち ら と も い え な い	513	52.6
ほ と ん ど 一 致 し て い な い	177	18.1
N. A.	6	0.6
計	976	100.0

という意見に対する反応から、聖職観をみると表23に示すように、「ほぼ一致」とする者が28.7%、「ほとんど一致していない」とする者が18.1%であり、肯定する者の方がやや多い。しかし、52.2%の者は「どちらともいえない」と回答している。

③ 看護婦に対する態度

(イ) 適合性(現在)(図8)

看護婦学校入学前の適合性評定とまったく同じ要領で、現在(調査時点)の適合性評定を求めた。「合っている」という回答が多かったのは「価値観(34.8%)」、「身体的条件(28.9%)」、「興味(26.6%)」、「計画(26.0%)」の側面である。一方、「合っていない」という回答は、6側面のうち「性格」の4.9%が最も多いもので他の側面は2~4%台である。特に「価値観」は1.9%で最も少ない。「合っている」、「合っていない」で2分してみると6の側面とも適合性ありとする者が多く、「価値観(85.1%)」、「興味(81.9%)」、「身体的条件(78.0%)」、「計画(78.0%)」で適合性ありとするものが多い。一方、適合性なしの比率の高い側面は、「学力(33.7%)」、「性格(28.7%)」の順である。

また入学前の結果と比べてみると全般的にいえることは、どの側面でも、「合っている」「合っていない」という極端な回答が減少していること、大きく2分したとき適合性ありとする反応の割合が同じかやや減少する傾向がみられる。

(ロ) 看護婦の職業イメージ(現在)(図9)

看護婦学校入学前のイメージ評定とまったく同じ要領で、現在(調査時点)の看護婦のイメージ評定を求め、同じ得点化をして得られた

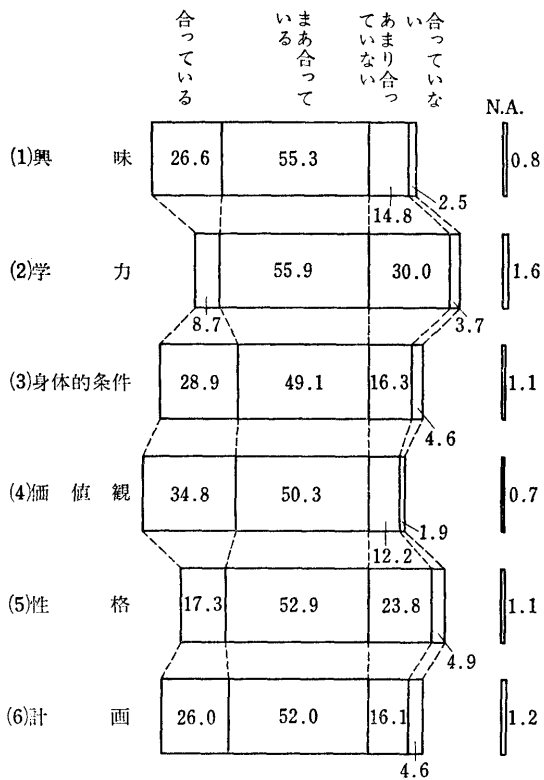


図8 適合性（現在）（数字は%）

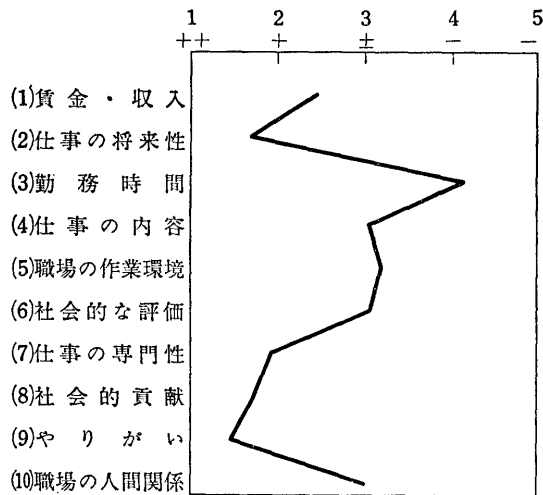


図9 看護婦の職業イメージ（現在）

プロフィールが図9である。10の側面のうち、イメージのよい側面は「やりがい」、「仕事の将来性」、「社会的貢献」、「仕事の専門性」、「賃金・収入」、一方、イメージの悪い側面は「勤務時

間」である。また、「仕事の内容」、「職場の作業環境」、「社会的な評価」、「職場の人間関係」の各側面は、どちらともいえないという結果である。

これらの結果を入学前のそれと比べてみると次のことがいえる。まず第1に、平均値プロフィールの形状はほとんど同じであること。第2に、平均値の変化は、3点すなわち、イメージ的に中立の方向へ変化している点である。

(イ) 自分の子に対する態度（表24）

将来自分の子供が看護職につきたいといったらという仮定の条件の下に、どのような態度をとるかを「ぜひすすめる」から「決してすすめない」の5つの選択肢を示して回答を求めた。その結果は、「どちらともいえない」が60.5%で最も多い。「ぜひすすめる」は8.6%、「一応すすめる」18.8%で、これらを合わせて促進的態度をとる者とするなら、それは全体の27.4%を占め、「あまりすすめたくない（8.9%）」と「決してすすめない（0.7%）」とを合わせた抑制的態度をとる回答（9.1%）より3倍ほど多い。

④ 将来の計画

(i) 卒業後の進路予定（表25）

看護学校卒業後の進路予定を看護婦になるかならないかという点で尋ねてみた。その結果は、表25に示されたように、看護婦になる予定の者が全体の約1/3の67.6%、看護婦にならない予定の者が、30.4%を占めている。

(ii) 職場選択の基準（図10）

将来病院看護婦として就職するという仮定の下に、職場選択する際、「労働条件」、「学習条件」、「人間関係」の3条件のうちどれを重視するかを尋ねた。第1位の比率をみると、

表24 我が子への対応

対 応	人 数	百 分 率
ぜひすすめる	84	8.6
一応すすめる	183	18.8
どちらともいえない	590	60.5
あまりすすめたくない	87	8.9
決してすすめない	25	2.6
N. A.	7	0.7
計	976	100.0

表25 卒業後の進路予定

進 路 予 定	人 数	百 分 率
看護婦になる	660	67.6
看護婦にならない	297	30.4
N. A.	19	1.9
計	976	100.0

	第1位	第2位	第3位	N.A.
(1)労働条件	53.3	31.4	8.5	6.9
(2)学習条件	34.9	31.6	27.4	6.1
(3)人間関係	9.4	27.5	54.5	8.6

図10 職場選択の基準 (図10)

「労働条件」、「学習条件」、「人間関係」という順で重視されていることがわかる。

3-4 看護学校入学時期とその他の要因との関係

看護学校に入学を決意した時期は、図3にみられるとおりでである。どのような時期に看護学校への入学を決意したのかということは、その後の進路選択をめぐるさまざまな行動に影響をもっていると考えられる。

ここでは、決意時期と他の要因とクロス集計することで、その関連をさぐってみたい。なお、以下の分析は、教育満足との関連もみるために3年生についてだけ行なった。

① 看護婦の近在 (表26)

決意時期と看護婦が身近かにいたかどうかという点との関係は、表26のとおりである。決意時期が「入学直前」組と「小学生」組とで、近くに「いる」の比率がやや低く、「高校1・2年生」組、および「その他」組で、近くに「いる」の比率がやや高い。しかしながら、先にあげた「早期型」、「高3型」、「直前型」、「その他型」と4分類してみれば、その比率は、ほとんど変わらないものになる。決意時期と、看護婦の近在との間には系統的な関連はみられない。

② 進路選択に対する評価 (表27)

決意時期と進路選択に関する評価との関連をみても、決意時期によって、進路選択に対する評価が違っているという結果がえられた。表27にみられるように、〈早期型〉においては、進路選択を「間違いはなかった」および「まあ大した間違いはなかった」と肯定的評価をする者がほぼ80%位存在するのに対し、〈高3型〉、〈直前型〉と決意時期が遅くなるに従って、「いろいろと問題があったようだ」とか「間違っていた」という否定的な評価が増えている。〈直前型〉においては、評価がまったく散ばっている様子がみられる。その上、「わからない」というあいまいな回答も増えている。〈その他型〉は、肯定する回答も多いが、否定回答、あいまい回答もあるというようなやはり評価がわかれているところにその特徴がみられる。

表26 看護婦の近在（上段は人数，（ ）は％）

	計	い る	い な い	N. A.
計	426 (100.0)	257 (60.3)	162 (38.0)	7 (1.6)
小 学 生	21 (100.0)	11 (52.4)	10 (47.6)	— (—)
中 学 生	80 (100.0)	48 (60.0)	30 (37.5)	2 (2.5)
高 校 1・2 年 生	97 (100.0)	65 (67.0)	31 (32.0)	1 (1.0)
高 校 3 年 生	155 (100.0)	90 (58.1)	65 (41.9)	— (—)
高 校 卒 業 直 前	32 (100.0)	22 (68.8)	10 (31.3)	— (—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	8 (42.1)	9 (47.4)	2 (10.5)
そ の 他	20 (100.0)	13 (65.0)	5 (25.0)	2 (10.0)
N. A.	2 (100.0)	— (—)	2 (100.0)	— (—)

表27 進路選択に対する評価（上段は人数，（ ）は％）

	計	間違っ てい な か つ た	ま あ 大 し た 間 違 い は な か つ た	い ろ い ろ 問 題 が あ つ た	間違っ て い た	わ か ら な い	N. A.
計	426 (100.0)	138 (32.4)	137 (32.2)	95 (22.3)	22 (5.2)	31 (7.3)	3 (0.7)
小 学 生	21 (100.0)	9 (42.9)	8 (38.1)	3 (14.3)	1 (4.8)	— (—)	— (—)
中 学 生	80 (100.0)	32 (40.0)	28 (35.0)	14 (17.5)	3 (3.8)	3 (3.8)	— (—)
高 校 1・2 年 生	97 (100.0)	42 (43.3)	34 (35.1)	14 (14.4)	2 (2.1)	5 (5.2)	— (—)
高 校 3 年 生	155 (100.0)	36 (23.2)	54 (34.8)	42 (27.1)	8 (5.2)	14 (9.0)	1 (0.6)
高 校 卒 業 直 前	32 (100.0)	7 (21.9)	6 (18.8)	10 (31.3)	5 (15.6)	4 (12.5)	— (—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	4 (21.1)	5 (26.3)	4 (21.1)	3 (15.8)	2 (10.5)	1 (5.3)
そ の 他	20 (100.0)	8 (40.0)	2 (10.0)	8 (40.0)	— (—)	2 (10.0)	— (—)
N. A.	2 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (50.0)	1 (50.0)

③ 高校時代の生活に対する評価（表28）

決意時期と高校時代の生活に関する全体的な評価との関連をみると、〈早期型〉から〈直前型〉へと決意時期が遅くなるにしたがって、「非常に充実していた」という回答の割合が高くな

る傾向がみられる。この傾向は、「非常に充実していた」、「だいたい充実していた」を肯定的評価「あまり充実していなかった」、「まったく充実していなかった」を否定的評価としてみてみると、それほど劇的なちがいはならないが、

表28 高校時代の生活に対する評価（上段は人数，（ ）は％）

	計	非常に充実していた	だいたい充実していた	あまり充実していない	まったく充実していない	わからない	N. A.
計	426 (100.0)	51 (12.0)	223 (52.3)	111 (26.1)	25 (5.9)	13 (3.1)	3 (0.7)
小学生	21 (100.0)	1 (4.8)	13 (61.9)	4 (19.0)	2 (9.5)	1 (4.8)	— (—)
中学生	80 (100.0)	7 (8.8)	45 (56.3)	22 (27.5)	4 (5.0)	2 (2.5)	— (—)
高校1・2年生	97 (100.0)	12 (12.4)	53 (54.6)	26 (26.8)	4 (4.1)	2 (2.1)	— (—)
高校3年生	155 (100.0)	17 (11.0)	81 (52.3)	42 (27.1)	10 (6.5)	4 (2.6)	1 (0.6)
高校卒業直前	32 (100.0)	7 (21.9)	15 (46.9)	6 (18.8)	3 (9.4)	1 (3.1)	— (—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	4 (21.1)	7 (36.8)	4 (21.1)	1 (5.3)	2 (10.5)	1 (5.3)
その他	20 (100.0)	3 (15.0)	9 (45.0)	7 (35.0)	1 (5.0)	— (—)	— (—)
N. A.	2 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (50.0)	1 (50.0)

表29 看護婦への憧れ（上段は人数，（ ）は％）

	計	あ	る	な	い	N. A.
計	426 (100.0)	174 (40.8)	244 (57.3)	8 (1.9)		
小学生	21 (100.0)	20 (95.2)	1 (4.8)	— (—)		
中学生	80 (100.0)	44 (55.0)	35 (43.8)	1 (1.3)		
高校1・2年生	97 (100.0)	37 (38.1)	60 (61.9)	— (—)		
高校3年生	155 (100.0)	50 (32.3)	100 (64.5)	5 (3.2)		
高校卒業直前	32 (100.0)	14 (43.8)	18 (56.3)	— (—)		
看護学校入学直前	19 (100.0)	4 (21.1)	14 (73.7)	1 (5.3)		
その他	20 (100.0)	5 (25.0)	14 (70.0)	1 (5.0)		
N. A.	2 (100.0)	— (—)	2 (100.0)	— (—)		

やはり、決意時期の遅い型ほど肯定的な回答が多い。

④ 看護婦への憧れ（表29）

中学生になる前に看護婦にあこがれたことがあるかどうかという点と、決意時期との関係は

表29のとおりである。決意時期が遅くなるに従って、憧れた経験のある人の割合が低くなっていく傾向がよよくみられる。特に、小学生の頃の決意した人の実に95.2%が、憧れた経験のあることを示している。また、〈高校卒業直前組〉

表30 他の進路との関係（上段は人数，（ ）は％）

	計	看護学校だけ	大学 (医)	短大 (医)	各種 (医)	大学 短大	各種 学校	就職	具体的記 述なし	N. A.
計	426 (100.0)	171 (40.1)	38 (8.9)	7 (1.6)	6 (1.4)	146 (34.3)	21 (4.9)	15 (3.5)	21 (4.9)	1 (0.2)
小学生	21 (100.0)	13 (61.9)	1 (4.8)	— (—)	— (—)	4 (19.0)	— (—)	2 (9.5)	1 (4.8)	— (—)
中学生	80 (100.0)	42 (52.5)	6 (7.5)	— (—)	3 (3.8)	20 (25.0)	6 (7.5)	3 (3.8)	— (—)	— (—)
高校1・2年生	97 (100.0)	51 (52.6)	7 (7.2)	— (—)	— (—)	22 (22.7)	6 (6.2)	4 (4.1)	7 (7.2)	— (—)
高校3年生	155 (100.0)	48 (31.0)	14 (9.0)	4 (2.6)	3 (1.9)	65 (41.9)	8 (5.2)	4 (2.6)	9 (5.8)	— (—)
高校卒業直前	32 (100.0)	3 (9.4)	6 (18.8)	1 (3.1)	— (—)	20 (62.5)	— (—)	1 (3.1)	1 (3.1)	— (—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	3 (15.8)	2 (10.5)	1 (5.3)	— (—)	9 (47.4)	— (—)	1 (5.3)	2 (10.5)	1 (5.3)
その他	20 (100.0)	9 (45.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	— (—)	6 (30.0)	1 (5.0)	— (—)	1 (5.0)	— (—)
N. A.	2 (100.0)	2 (100.0)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)

表31 入学時の進路予定（上段は人数，（ ）は％）

	計	看護婦になる	それ以外	N. A.
計	426 (100.0)	292 (68.5)	127 (29.8)	7 (1.6)
小学生	21 (100.0)	20 (95.2)	1 (4.8)	— (—)
中学生	80 (100.0)	71 (88.8)	9 (11.3)	— (—)
高校1・2年生	97 (100.0)	80 (82.5)	17 (17.5)	— (—)
高校3年生	155 (100.0)	87 (56.1)	64 (41.3)	4 (2.6)
高校卒業直前	32 (100.0)	12 (37.5)	19 (59.4)	1 (3.1)
看護学校入学直前	19 (100.0)	8 (42.1)	10 (52.6)	1 (5.3)
その他	20 (100.0)	13 (65.0)	7 (35.0)	— (—)
N. A.	2 (100.0)	1 (50.0)	— (—)	1 (50.0)

で、上述の傾向とは逆に憧れ経験者の割合がやや多くなるという現象がみられるのも興味深いことである。

⑤ 他の進路との関係（表30）

決意時期と、他の進路選択の状況との関係を

みたのが表30である。この表をみると〈早期型〉の約半数は、看護学校1本槍、7%位が医療関連の大学への進学、23%位が医療と関係のない大学・短大への進学を同時に考えたこと、これに対し〈直前型〉では、看護学校だけとい

表32 オリエンテーション（上段は人数、（ ）は％）

	計	経験あり	経験なし	N.	A.
計	426 (100.0)	100 (23.5)	322 (75.6)	4	(0.9)
小学生	21 (100.0)	7 (33.3)	14 (66.7)	—	(—)
中学生	80 (100.0)	24 (30.0)	56 (70.0)	—	(—)
高校1・2年生	97 (100.0)	27 (27.8)	70 (72.2)	—	(—)
高校3年生	155 (100.0)	35 (22.6)	119 (76.8)	1	(0.6)
高校卒業直前	32 (100.0)	2 (6.3)	30 (93.8)	—	(—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	4 (21.1)	14 (73.7)	1	(5.3)
その他	20 (100.0)	1 (5.0)	19 (95.0)	—	(—)
N.	2 (100.0)	—	—	2	(100.0)
A.		(—)	(—)		

う者は、1割をやや超える程度で、20%近くは医療関連の大学・短大への進学を、30%近くは医療と関係のない大学・短大への進学を同時に考えていたことを示している。

⑥ 入学時の進路予定（表31）

入学時の進路予定と決意時期との関係を見たのが、表31である。この表をみると、「看護婦になる」予定の者の割合は、決意時期が早いほど高いという強い傾向がみられる。すなわち〈早期型〉は80%台、〈高3型〉は50%台、〈直前型〉は40%台、〈その他型〉は60%が「看護婦になる」という予定をもって入学していることを示している。また、〈直前型〉で、「それ以外」の内容をみてみると、積極的な予定をもっていない者が約半数いた。

⑦ オリエンテーション（表32）

高校時代の進路指導で、医療・保健関係の進路のオリエンテーションを受けたかどうかを決意時期との関係からみたのが表32である。〈高

校卒業直前組〉と〈その他型〉で、オリエンテーションを受けていない者の割合が高い点が目立つ。全般的には〈早期型〉から〈直前型〉へと決意時期が遅いほど、オリエンテーションを受けた割合は減る傾向がみられる。

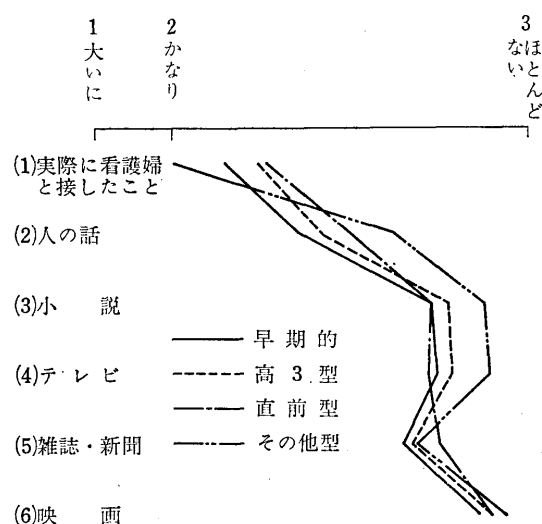


図11 決意時期と影響因

⑧ 看護婦像形成の影響因（図11）

決意時期の4つの型ごとに、看護婦像形成に影響のあった要因1つ1つについて、「大いに」

= 1点, 「かなり」= 2点, 「まったくない」= 3点と得点化し, 平均値のプロフィールを描いたのが図11である。まずプロフィールの形状は, 4つの型でほぼ同じであることがわかる。次に, <その他型>を除くと, 決定時期が早いほ

ど, どの要因においても左側, すなわち, 多少とも影響を受けたという側にあることが示されている。また, <その他型>は, 「実際に看護婦に接したこと」による影響が大きく, 「人の話」からはほとんど影響を受けていないという特徴

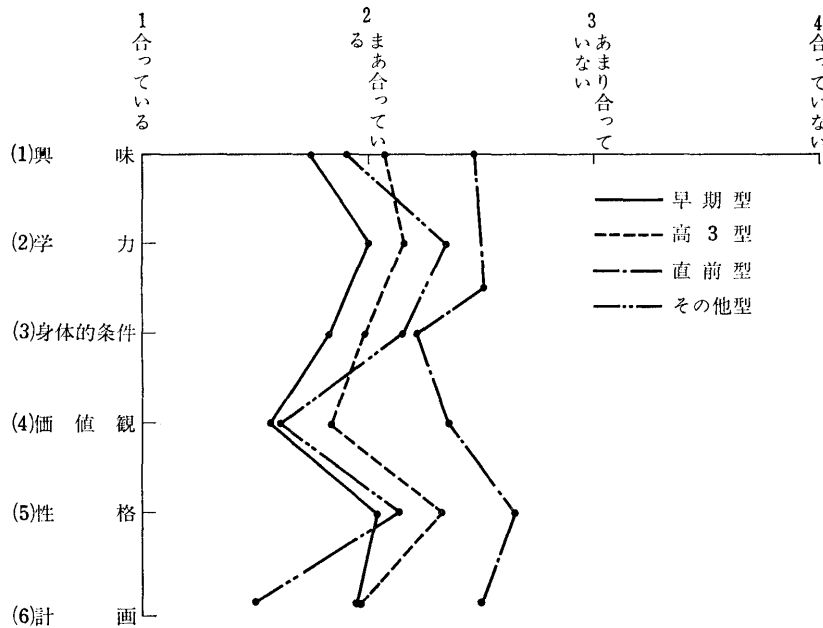


図12 決意時期と適合性 (入学前)

あるパターンがみられる。

⑨ 適合性 (入学前) (図12)

自分と看護婦の仕事との適合性, 評定を決意時期との関係からみた。「合っている」～「合っていない」にそれぞれ1～4点を与え, 決意時期の4つの型ごとに平均値プロフィールを描いたのが図12である。これをみると, 形状の点で, <早期型>と<高3型>が非常に似ている。<その他型>は, この2つの型と計画に関する適合性評定でかなりちがいがみられる。また, <直前型>は, 他の3型に比べすべての条件において, 評定点が低い。<その他型>を除くと, 決意時期が早い者ほど「合っている」という方

向に適合性の評定をしている。

⑩ 看護婦の職業イメージ (図13)

看護婦の職業イメージを決意時期の型ごとにまとめたのが図13である。職業イメージの10側面それぞれについて, 「++～--」に1点～5点を与え, 平均値を求めプロフィールに描いたものである。全体的にみると, 形状は4つの型は互いに類似している。<その他型>を除くと, 決意時期が早い程, +のイメージをもっていることがわかる。<その他型>は, 「社会的な評価」, 「賃金・収入」, 「職場の作業環境」, 「職場の人間関係」の4側面以外の側面では, 他の3つの型より+のイメージをもっている。

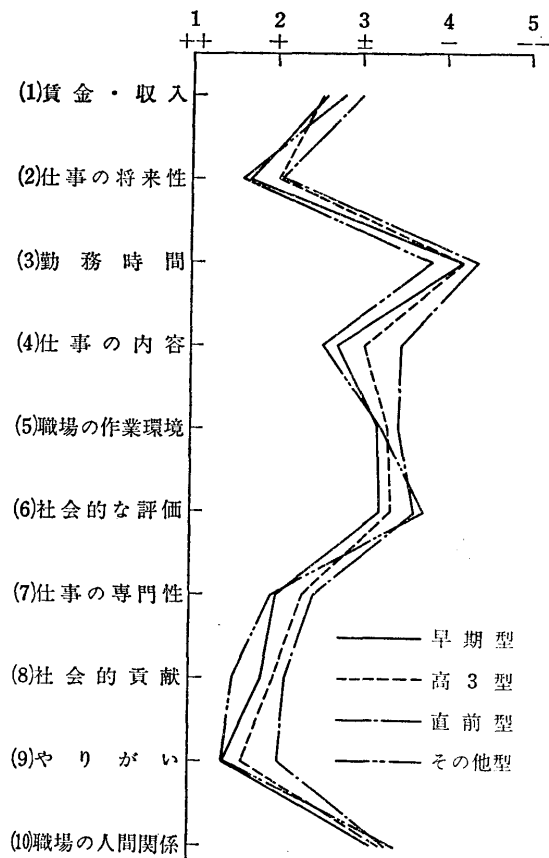


図13 決意時期と看護婦の職業イメージ

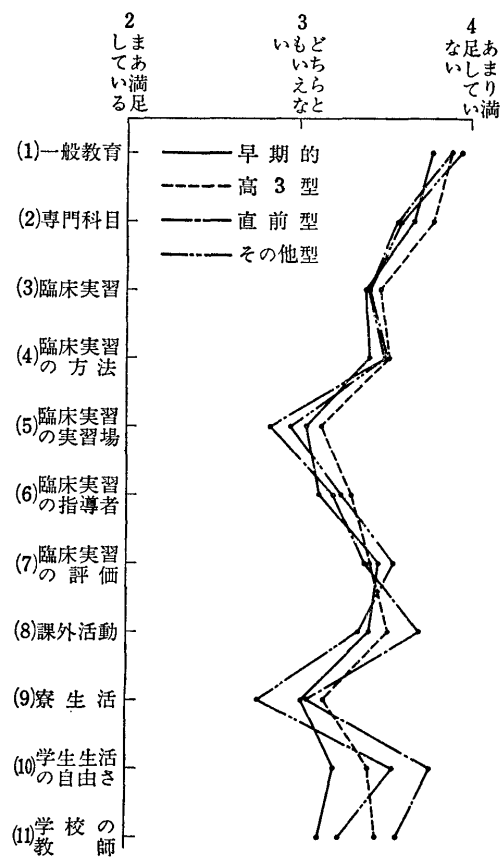


図14 決意時期と教育満足

表33 看護学生としての誇り (上段は人数, () は%)

	計	誇りをもっている	どちらもいえぬ	誇りをもっていない	N.	A.
計	426 (100.0)	171 (40.1)	221 (51.9)	32 (7.5)	2 (0.5)	
小学生	21 (100.0)	13 (61.9)	8 (38.1)	(—)	(—)	
中学生	80 (100.0)	37 (46.3)	37 (46.3)	6 (7.5)	(—)	
高校1・2年生	97 (100.0)	42 (43.3)	52 (53.6)	2 (2.1)	1 (1.0)	
高校3年生	155 (100.0)	56 (36.1)	86 (55.5)	13 (8.4)	(—)	
高校卒業直前	32 (100.0)	11 (34.4)	18 (56.3)	3 (9.4)	(—)	
看護学校入学直前	19 (100.0)	1 (5.3)	12 (63.2)	6 (31.6)	(—)	
その他	20 (100.0)	11 (55.0)	6 (30.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	
N.	2 (100.0)	(—)	2 (100.0)	(—)	(—)	

⑪ 看護学生としての誇り（表33）

決意時期と看護学生として誇りをもっているかどうかの関係をみたのが表33である。決意時期が遅くなるにしたがい、「誇りをもっている」という回答の割合が減少する。特に〈看護学校入学直前組〉では、「誇りをもっていない」という否定の回答が圧倒的に多い。〈その他型〉は、「誇りをもっている」という肯定の回答が非常に多い。

⑫ 教育に対する満足感（図14）

教育に関する11の側面について、「満足して

いる」～「満足していない」に1点～5点を与え、決意時期ごとに平均値を求め、プロフィールを描いたものが図14である。これをみると、すべての側面で、4つの平均値間にほとんど差がみられない。4つの型で、評定のばらつきが多少でもでるのは、「課外活動」、「寮生活」、「学生生活の自由さ」といった、いわば教科外の側面である。いくつかの側面では逆転しているが、全般的にみると〈早期型〉が、わずかながら〈高3型〉、〈直前型〉より「満足している」方向に寄っている。

表34 聖職観（上段は人数、（ ）は％）

	計	ほぼ一致	どちらとも いえない	ほとんど一 致しない	N. A.
計	426 (100.0)	79 (18.5)	242 (56.8)	102 (23.9)	3 (0.7)
小学生	21 (100.0)	2 (9.5)	15 (71.4)	3 (14.3)	1 (4.8)
中学生	80 (100.0)	14 (17.5)	51 (63.8)	14 (17.5)	1 (1.3)
高校1・2年生	97 (100.0)	23 (23.7)	47 (48.5)	27 (27.8)	— (—)
高校3年生	155 (100.0)	29 (18.7)	91 (58.7)	35 (22.6)	— (—)
高校卒業直前	32 (100.0)	4 (12.5)	20 (62.5)	8 (25.0)	— (—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	2 ³ (10.5)	7 (36.8)	10 (52.6)	— (—)
その他	20 (100.0)	4 (20.0)	10 (50.0)	5 (25.0)	1 (5.0)
N. A.	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	— (—)	— (—)

⑬ 聖職観（表34）

決意時期と聖職観との関係をみたのが表34である。「ほぼ一致」という回答の割合は、〈早期型〉、〈その他型〉が高く、〈高3型〉、〈直前型〉の順に低くなる。〈直前型〉の中で〈看護学校入学直前組〉では、「ほとんど一致しない」という回答が圧倒的に高い。

⑭ 卒業後の進路予定（表35）

決意時期と卒業後の進路予定の関係は、表35のとおりである。「看護婦になる」という回答の割合は、決意時期が早いほど高く、遅くなるにしたがい順次低くなっている。〈その他型〉の、「看護婦になる」という回答の割合は、〈早期型〉より高い。

表35 卒業後の進路予定（上段は人数，（ ）は％）

	計	看護婦	その他	N. A.
計	426 (100.0)	289 (67.8)	127 (29.8)	10 (2.3)
小学生	21 (100.0)	18 (85.7)	3 (14.3)	— (—)
中学生	80 (100.0)	58 (72.5)	20 (25.0)	2 (2.5)
高校1・2年生	97 (100.0)	69 (71.1)	24 (24.7)	4 (4.1)
高校3年生	155 (100.0)	100 (64.5)	53 (34.2)	2 (1.3)
高校卒業直前	32 (100.0)	18 (56.3)	14 (43.8)	— (—)
看護学校入学直前	19 (100.0)	9 (47.4)	9 (47.4)	1 (5.3)
その他	20 (100.0)	15 (75.0)	4 (20.0)	1 (5.0)
N. A.	2 (100.0)	2 (100.0)	— (—)	— (—)

3-5 今後の課題

これまで、調査結果の単純集計に基づき対象者である看護学生の個人的特徴、看護学校入学以前の状況、および入学後の状況について概観し、3年生については、看護学校入学決意時期と他のいくつかの項目をクロスさせ、その関連をみた。

次には、1年生と3年生を別々に集計し、その違いを看護教育、特に臨床実習経験との関連、および対象学校のさまざまな属性との関連から分析してゆくことを予定している。

ところで入学決意時期と他の項目とをクロスさせた結果をみると、決意時期は、進路選択のその他の、要因と一定の関係をもっていることがわかる。特に、決意時期が早いほど、進路予定で「看護婦になる」者の割合が高くなるという関連は「看護婦不足」問題にひきよせて、看護教育問題を考えるとき、興味のある結果である。

このように、2つの要因をクロスさせて、その関連をみてゆく作業が学年比較の次に行なわれる予定のものである。

しかし、ここまでの整理では、既存の調査とあまり変わることはない。その次の段階では、
1) 多変量解析の手段をもちいて看護学生の現在の進路設計を規定していると思われる進路選択パターンとか諸要因の重みを探索すること、
2) 入学動機・家庭的な背景などの組み合わせから、いくつかの典型的な進路選択パターンをモデル化し、各パターンに属する学生が、看護教育を受ける中で、どのような意識をもち、どのように変わったかというような次回の調査へのダイナミックな仮説を提供することが可能となる分析の段階へすすむ予定である。

進路選択状況調査

日本看護協会調査研究部

1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---

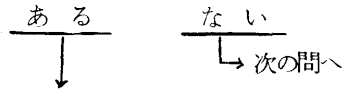
問1. 女性が職業をもって外で働くことについて世間にはいろいろな意見があります。下記の意見のうち、世間に最も多い意見は何番だと思いますか。また、あなた自身の意見に一番近いのは何番だと思いますか。それぞれ右のワク内の該当番号を○でかこんで下さい。

	世間に多い意見	あなたの意見	
1. 女性は職業をもたない方がよい。	1	1	
2. 結婚するまでは職をもった方がよい。	2	2	
3. 子供ができるまでは職業をもった方がよい。	3	3	
4. 子供ができて、可能なかぎり続けた方がよい。	4	4	<input type="checkbox"/> 7
5. 子供が小さいあいだはやめて、ある程度大きくなったら再就職する方がよい。	5	5	
6. わからない。	6	6	<input type="checkbox"/> 6
7. その他(具体的に)	7	7	

問2. 男女間の職業能力のちがいにいろいろな意見があります。世間の男性に最も多い意見は何番だと思いますか。また、あなた自身の意見に一番近いのは何番だと思いますか。それぞれ右のワク内の該当番号を○でかこんで下さい。

	男性に多い意見	あなたの意見	
1. 男女間には職業能力の差はない。	1	1	
2. 男女間には職業能力の差があり、これは生まれつきのものである。	2	2	
3. 男女間に職業能力の差があつたとしても、これは長い間の社会的役割の違いによって作られたものである。	3	3	<input type="checkbox"/> 9
4. 男女間には職業能力の差というよりも、興味や態度の違いがあるのみである。	4	4	
5. わからない。	5	5	<input type="checkbox"/> 10
6. その他(具体的に)	6	6	

問 11. あなたは中学生になる前に、看護婦にあこがれたことがありますか。



今から考えるとそのあこがれは、どのようなことがきっかけでおこったものでしょうか。

1. 家族、知人に看護婦がいて
2. 実際に看護婦（家族、知人を除く）に接する中で
3. 人から話を聞いて
4. 小説、テレビ、映画などを通して
5. その他（具体的に _____)

24

問 12. あなたが看護学校に入学しようと決めたのはいつ頃ですか。

1. 小学生の頃
2. 中学生の頃
3. 高校1,2年生の頃
4. 高校3年生の頃
5. 高校卒業の直前
6. 看護学校入学直前
7. その他（具体的に _____)

25

問 13. あなたの看護婦像の形成に影響のあったものはなんでしょう。

	大 い に	か な り	なほ と ん いど	
1. 実際に看護婦と接したこと	1	2	3	26
2. 看護婦についての人の話	1	2	3	27
3. 小説	1	2	3	28
4. テレビ	1	2	3	29
5. 雑誌、新聞	1	2	3	30
6. 映画	1	2	3	31

問14. あなたが看護学校を受験しようと決めた頃、それ以外の進路も考えていましたか。

1. 看護学校に入学することだけ考えていた

2. 看護学校に入学するという進路以外にも考えた進路がある

- SQ 1. イ 大学への進学 (学科)
 ロ 短大への進学 (学科)
 ハ 各種学校への進学(種類、学科)
 ニ 就職 (職種)

→SQ 2. SQ 1.の進路が実際には選ばれなかったわけですが、その理由は
 为什么呢

32

()

問15. あなたが看護学校を受験することを話した時、あなたの周囲の人々は、どのような反応をしましたか。

	賛成	どちらとも いえない	反対
1. 父	1	2	3
2. 母	1	2	3
3. 両親以外の周囲の大人	1	2	3
4. 担任の先生	1	2	3
5. 友人	1	2	3

33
 34
 35
 36
 37

父や母に反対された人だけ答えて下さい

あなたの父、母はどんな理由で反対しましたか。

1. 父 理由()
 2. 母 理由()

問16. あなたの看護学校受験を知った時、あなたの周囲にいる看護婦(看護婦の資格のある人も含む)や医療
 に関係して、看護の仕事を知っている人々の反応は全体としてみると、どんなものでしたか。

1. 身近かにそのような人がいなかったのわからない
 2. ほとんどの人が賛成
 3. 賛成の方が多い
 4. 賛成、反対が半々
 5. 反対の方が多い
 6. ほとんどの人が反対

38

問17 あなたは将来自分の子供が看護職につきたいといたら、どのような態度をとるでしょうか。

1. ぜひすすめる
2. 一応すすめる
3. どちらともいえない
4. あまりすすめたくない
5. 決してすすめない

	39
--	----

またどのような理由で、そんな態度をとると考えたのでしょうか。

理由()

問18 あなたは看護学校に入学する前に、自分自身と看護婦の仕事との関係をどのようなものと、考えていましたか。

	合 つ て い る	ま あ 合 つ て	あ ま り 合 つ て い な い	い 合 つ て い な い	
1. あなたの興味、関心の点で	1	2	3	4	40
2. あなたの学ぶ力からみて	1	2	3	4	41
3. あなたの体力や身体的条件からみて	1	2	3	4	42
4. あなたの仕事観・職業観からみて	1	2	3	4	43
5. あなたの性格からみて	1	2	3	4	44
6. あなたの将来設計からみて	1	2	3	4	45

また、その時、あなたは次の各点について看護婦という職業ごどのようなイメージを抱いていましたか。「++(良いイメージ)」から「--(悪いイメージ)」の5段階で答えて下さい。

	++	+	±	-	--	
1. 賃金収入の点で	1	2	3	4	5	46
2. 仕事の将来性	1	2	3	4	5	47
3. 勤務時間	1	2	3	4	5	48
4. 仕事の内容	1	2	3	4	5	49
5. 職場の作業環境	1	2	3	4	5	50
6. 社会的な評価	1	2	3	4	5	51
7. 仕事の専門性	1	2	3	4	5	52
8. 社会的貢献の点で	1	2	3	4	5	53
9. やりがい	1	2	3	4	5	54
10. 職場の人間関係	1	2	3	4	5	55

問19 あなたが看護学校に入学した時、看護婦にぜひなろうと考えていましたか。

1. ぜひ看護婦になろうと考えていた。→ 次の問へ
2. 看護婦になろうという気持はあまりなかった。
↳ では看護学校へ入学したのはどのような理由からでしょうか。
()

	56
	57
	58

問20 あなたは高校時代の生活に関して、全体的にみてどのような感じを持っていますか。

1. 非常に充実していた
2. たいがい充実していた
3. あまり充実していなかった
4. 全く充実していなかった
5. わからない

	59
--	----

問21 現在、ふり返ってみて、高校を卒業した際のあなたの進路選択はどうであったと思いますか。

1. 間違っていなかったと思う
2. まあ大した間違いはなかったと思う
3. いろいろと問題があったようだ
4. 間違っていたと思う
5. わからない

	60
--	----

問22 あなたは高校時代の進路指導で医療・保健関係の進路のオリエンテーションを受けましたか。

1. はい
2. いいえ

	61
--	----

問23 あなたが高校時代に自分の進路を考える時の態度は、どのようなものでしたか。

	左 考 え て よ う い う に	ど ち ら か と い う に	ど ち ら か と い う に	右 考 え て よ う い う に		
(ア) 経済的にめぐまれなくても世の中のためになる職業につきたい	1	2	3	4	世の中のためになることよりも経済的に豊かな生活ができる職業につきたい	<input type="text"/> 62
(イ) いそがしくてゆっくり楽しむための時間がなくても自分がそのことにうちこめる職業につきたい	1	2	3	4	仕事はきまった時間内におわり、楽しむための時間を十分もてる職業につきたい	<input type="text"/> 63
(ウ) 若い時にすこしは苦勞しても将来高い地位につける職業につきたい	1	2	3	4	将来高い地位につけることより平凡でも幸福な家庭をつくれる職業につきたい	<input type="text"/> 64
(エ) 大規模な安定した職場でなくても自分の能力を十分に発揮できる職業につきたい	1	2	3	4	自分の能力はたとえ十分に発揮できなくとも、安定した職場がよい	<input type="text"/> 65

問24 あなたは現在行なわれている看護教育にどのくらい満足していますか。次の各点について「満足している」から「満足していない」の5段階で答えて下さい。

	満 足 し て い る	ま ま 満 足 し て い る	ど ち ら か と も い え な い	あ ま り 満 足 し て い な い	満 足 し て い ない	
1. 一般教養の授業について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 66
2. 専門科目の授業について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 67
3. 臨床実習について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 68
4. 臨床実習の方法について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 69
5. 臨床実習の実習場について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 70
6. 臨床実習の指導者について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 71
7. 臨床実習の評価について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 72
8. 課外活動について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 73
9. 寮生活について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 74
10. 学生生活の自由さについて	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 75
11. 学校の教師について	1	2	3	4	5	<input type="text"/> 76

問25. あなたは全体として、現在の生活に満足していますか。

1. たいへん満足している
2. まあ満足している
3. どちらともいえない
4. あまり満足していない
5. 全く満足していない

	77
--	----

問26 あなたは、現在あなたが看護学生であるということに誇りをもっていますか。

- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| 1 | 2 | 3 |
| 誇りをもって
いる | どちらとも
いえない | 誇りをもって
いない |

	78
--	----

問27 あなたは看護教育を受けている現在、自分自身と看護婦の仕事との関係をどのようなものと考えていますか。

- | | 合
つ
て
い
る | る
ま
あ
合
つ
て
い | い
な
い
あ
ま
り
合
つ
て | 合
つ
て
い
な
い |
|---------------------|-----------------------|---------------------------------|---|----------------------------|
| 1. あなたの興味、関心の点で | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. あなたの学ぶ力からみて | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. あなたの体力や身体的条件からみて | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. あなたの仕事観・職業観からみて | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. あなたの性格からみて | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. あなたの将来設計からみて | 1 | 2 | 3 | 4 |

	7
	8
	9
	10
	11
	12

○ またあなたは、現在次の各点について看護婦という職業にどのようなイメージを抱いていますか。
「++(良いイメージ)」から「--(悪いイメージ)」の5段階で答えて下さい。

- | | ++ | + | ± | - | -- |
|-------------|----|---|---|---|----|
| 1. 賃金収入の点で | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 仕事の将来性 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 勤務時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 仕事の内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 職場の作業環境 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 社会的な評価 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 仕事の専門性 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 社会的貢献の点で | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. やりがい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 職場の人間関係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

	13
	14
	15
	16
	17
	18
	19
	20
	21
	22

問28 あなたは現在、看護学校卒業後の進路をどのように考えていますか。

- 1. 看護婦になる
- 2. 看護婦にならない
 - ↳SQ イ 進学(具体的に)
 - ロ その他(具体的に)
- ↳SQ イ 何年か続ける
 - ロ 結婚するまで続ける 23
 - ハ 子供が出来るまで続ける
 - ニ 子供が大きくなったらまた続ける 24
 - ホ 一生続ける

問29 あなたが将来病院看護婦として就職するとしたら、病院を選ぶ条件のうち、どんなものを重視したいと思いますか。次の3条件について、重視したい順に1,2,3の数字を記入して下さい。

- () 勤務時間、勤務体制など労働条件の良いこと 25
- () 病院全体に研究的雰囲気があること 26
- () 先輩や友人・知人がいて安心感のもてること 27

ご協力ありがとうございました。

文 献

- 板倉美津子他：女子高校生の看護に関する認識，看護教育，Vol. 11, No. 8, 1970
- 姫路赤十字高等看護学院2年生：社会における看護婦への理解度，看護教育，Vol. 13, No. 3, 1972
- 車田松三郎：看護婦の職業意識の変化について，看護研究，Vol. 2 No. 4, 1969
- 前原澄子他：日本看護協会看護教育問題研究会分担研究報告(7)，看護学校入学者の動向—高等看護学院と学生—，看護教育，Vol. 16, No. 3, 1975
- 丸橋佐和子他：看護の認識調査—看護学生と高校生と比較して—，看護教育，Vol. 12, No. 7, 1971
- 松木光子他：看護学生の進路決定過程について，看護教育，Vol. 13, No. 1, 1972
- 大河原千鶴子，大西紀久江：看護学生（進学コース）および保母学生の職業に対する意識調査，Vol. 13, No. 4, 1972
- 大越美代子他：看護学生の教育に対する満足を設定する諸要因，看護教育 Vol. 11, No. 6, 1970
- 大根田充男：若年者の職業適応に関する縦断的分析—職業観を中心にして—，オペレーションズ・リサーチ，1976年7月号
- 酒井統子，芝岡七五三子：3年課程看護学校卒業生進路調査と進学者追跡調査による動向，看護教育，Vol. 15, No. 7, 1974
- 高橋章子，中島紀恵子：看護高校生徒および看護短大学生における職業観の発達に関する研究—職業観診断テストの結果分析—，看護教育，Vol. 15, No. 8, 1974
- 氏家幸子他：大阪大学医療技術短期大学部看護科学生の動向（IV）入学生の看護に関する認識，看護教育，Vol. 15, No. 3, 1974
- 職業研究所 職研資料シリーズⅢ—15，若年労働者の職業適応に関する追跡研究（その6），1975
- 職業研究所 職研資料シリーズ 婦雇—18，婦人労働者の職業適応に関する研究，1976
- 岡本英雄：職業イメージと職業選択，職業研究所研究紀要，No. 3, 1972
- 岡本英雄：青少年の職業観 職業意識と看護婦不足問題，昭和49年度日本看護協会調査研究〈報告 No. 1〉，1975